

自由応募分科会 1 アジアにおける性的マイノリティの政治：家族・宗教・国家
報告 2

伊賀司（京都大学研究員）

現代マレーシアにおける「セクシュアリティ・ポリティクス」の誕生
— 「アンワル同性愛裁判」の影響再考と活性化する LGBT 運動

The Birth of “Sexuality Politics” in Contemporary Malaysia: Rethinking the Impact of
“Anwar Homosexuality Court Cases” and the Rise of LGBT Movements

マレーシアの元副首相で野党指導者のアンワル・イブラヒムは 1998 年と 2008 年の 2 度にわたり刑法 377 条が定める同性愛容疑によって起訴されている。中でも 1998 年のアンワル同性愛裁判の政治的影響については、与党からのアンワル支持者の離脱やマレー人社会における与野党間での支持分裂、それに伴う野党の勢力拡大や、市民社会の活性化につながったことが政治研究者を中心に指摘されてきた。他方で文化人類学者やジャーナリストなどは、LGBT の人々への抑圧的言説が広がる一方で、アンワルの裁判が進む中、性に関する用語や言説がメディアや政治指導者の口を通して公に語られることで、逆説的ながら LGBT の人々や一般市民への性への理解が部分的に深まったことを観察している。

こうした政治学者や文化人類学者らの見解がある一方で、「アンワルの同性愛裁判」を契機として性に関わる欲望と観念の集合であるセクシュアリティそれ自身をめぐる、政治がどのように展開されるようになったかという観点を意識した分析はほとんど手つかずのまま残されている。報告者は 1998 年と 2008 年のアンワルの同性愛裁判は、それぞれがその当時のマレーシアにおけるセクシュアリティ・ポリティクスの転換点を示す重要な事件であったと考える。そこで本報告では、2 度のアンワルの同性愛裁判を経る中で、①政治エリート間の対立において、セクシュアリティをめぐる政治がどのように変質してきたのかというエリート・レベルの視点と、②1980 年代以降のイスラーム化の進展やアジア的価値論の言説の普及によって強まってきた異性愛規範の中で LGBT の人々がどのように運動を展開してきたのかという運動レベルの視点の双方から分析を行うことで、現代マレーシアにおけるセクシュアリティ・ポリティクスの誕生と変容を明らかにする。